

CeMI 気象防災支援・研究センター  
*News Letter*

Contents

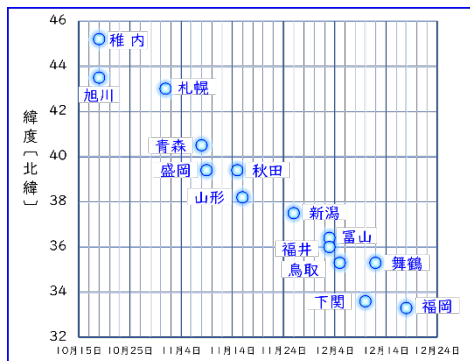
1. 近づく冬の足音
2. 南海トラフ巨大地震 発生確率の変更
3. 紅葉前線

# 1 近づく冬の足音

10月下旬には北海道の各地で初雪が観測されました。11月に入れば、東北地方あるいは標高の高い地方からも次々に初雪や初霜、初氷の便りが届くようになります。

日本に寒さや雪をもたらすのは広大な大陸の奥地で育った寒気です。日本に冬の足音が近づく1か月くらい前、10月には大陸の奥地では寒気が蓄積されるようになってきます。10月に入ればシベリアなど大陸の高緯度地方では日照が極端に少なくなり、気温はマイナス20℃以下になることも珍しくはありません。年により季節の進みに違いはあっても、11月になるとこの寒気の南下によって“冬の足音”が日本に近づいてきます。

これからの時期、低気圧が発達しながら日本付近を通過し、そのあとを追うように大陸から寒気が南下してきます。



図は日本海側の地方を中心に主要都市の初雪の日を緯度によって並べたものです。北海道ではほぼ10月末までに初雪があります。その後は11

月ひと月をかけて北陸地方あたりまで南下、その後12月下旬頃にかけて西日本の日本海側、九州地方の北部まで南下していきます。本州でも、内陸の標高の高い地方では、同じ程度の緯度の日本海側の地方に比べて1週間程度早く初雪が観測されます。

冬の足音は初雪や初霜、初氷の便りばかりではありません。日本海側の地方では、しぐれの季節が始まります。

日本海側の地方は11月に入ると日照時間が減って、逆に降水量が多くなります。本格的な雪の季節の前、晩秋から初冬にかけてのしぐれの季節です。しぐれは時に雷や雹を伴ったり、海上竜巻を発生させたりすることもあります。北陸地方など日本海側の地方ではこの雷が本格的な鰯〔ぶり〕漁の始まりの頃と重なることから『ぶり起こし』などとも呼ばれています。

一方、冬への足音が近づく中で、11月は意外にも短時間強雨など強い雨の降る時期でもあります。日本付近を通る低気圧が発達すると、南から暖かく湿った空気が流れ込んで来ます。低気圧の前面や温暖前線付近で強い雨が降り、低地の浸水や中小河川の洪水につながることもあります。台風シーズンが終わってひと安心の時期ですが、気象防災の視点では低気圧の通過に伴う11月の大雨にも改めて注意が必要です。



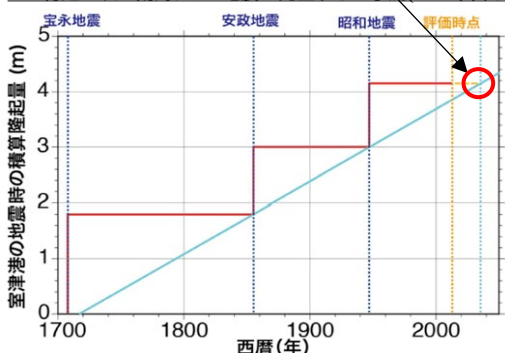


## 2 南海トラフ巨大地震 発生確率の変更

南海トラフ巨大地震の発生予測について、政府の地震調査委員会は今年9月、今後30年以内に起きる発生確率の計算方法を見直しました。その結果、今年1月に発表していた発生確率「80%程度」を「60~90%程度以上」に変更したほか、新たに別の計算方法による発生確率「20~50%」も併記されました。

南海トラフ巨大地震の発生確率の計算方法は、南海トラフ独自の「時間予測モデル」(図参照)とよばれるもので、他の海溝型の地震で用いられている「単純平均モデル」とは異なった計算方法によって求められた値です。

この付近で次の南海トラフ地震が発生すると予測(2030年代?)



時間予測モデルの概念図(地震調査委員会資料に加筆)

南海トラフ独自の「時間予測モデル」とは、古文書に残されている江戸時代に発生した南海トラフの地震の際に、高知県室戸市の室津港で見られた地盤隆起の様子を示

した記録から推定される隆起量に基づいたものです。この古文書に残されている記録の正確性をめぐっては、以前から議論がありました。今般の見直しでは隆起量の根拠となる古文書の記述内容や当時推定される潮位を精査したうえで、誤差を反映できる計算方法を導入した結果、発生確率を「60~90%程度以上」と算出したものです。

併せて、ほかの海溝型の地震と同一土俵で比較できるように、ほかの海溝型で用いられている発生確率を求める手法と、同様の「単純平均モデル」による発生確率は「20~50%」になると併記したということです。

これらの発生確率の変更は、計算方法の改訂であって、地下の動きに異常な変化が生じたために確率が変わったものではありません。また、想定される津波の高さ、震度、人的被害などの被害想定に変更はありません。地震調査委員会は、発生確率の数字に変更があっても次の地震の発生が切迫していることに変わりはなく、国、地方公共団体、住民等は、地震発生に対する防災対策や日頃からの備えに引き続き努めていくことが必要としています。

「南海トラフ地震は、次の地震に向かって、既に折り返し地点を過ぎている」ということでしょう。

## 3 紅葉前線



春は桜ですが、秋は紅葉ですね。特に「モミジ」は赤く染まって秋の景色をあざやかに引き立てます。日本の四季を感じることでできる一つで「秋」を代表するものです。

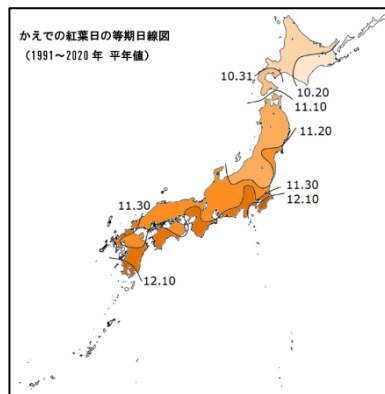
山全体が紅葉する日光や街のあちこちで紅葉が楽しめる京都など、全国各所には紅葉の名所があります。春の「花見」に対して、秋に紅葉の美しい場所を訪れ、色づいた木々の景色を楽しむことは「モミジ狩り」と呼ばれますね。写真は、東京都の小石川後楽園で写したものです。遠くへ行かなくても、身近なところでこのような美しい紅葉を楽しむことができます。

ところで、気象庁では生物季節観測の一つとしてイロハカエデ(イロハモミジともいう)の紅葉を観測しています。このイロハカエデは「モミジ」の代表格となります。

紅葉前線(こうようぜんせん)とは、日本における紅葉

の見頃が進む様子を示す線のことです。春の桜前線と同様に、特定の樹木が紅葉する時期を結んで地図上に示したものです。図は、平年の紅葉前線を示したもので、10月中旬に北海道から始まり、12月上旬から中旬にかけて関東・東海の各地方の太平洋沿岸、近畿地方、九州地方南部の地域に達します。(ただし、標高の高いところではこれよりも早く見頃を迎えます。)

なお、紅葉の見頃は、その年の気象状況によって大きく変わります。今はインターネットで見頃の情報も入手できます。11月は気候的にも良い季節ですので、紅葉前線も参考にしながら、モミジ狩りを計画してみませんか。もちろん、天気予報も参考に！



(図出典:気象庁)



掲載内容へのご意見、そのほかサービスに関するご相談・ご要望などございましたらお気軽にご連絡ください。

NPO法人 環境防災総合政策研究機構(CeMI)

気象防災支援・研究センター

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22口ーヤル若葉105号  
http://www.npo-cemi.com/center.html

☎ 03-3359-7971

☎ 03-3359-7987

✉ advisory@npo-cemi.com

